


# 2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

 **ダイワボウホールディングス株式会社**

2023年11月9日

(証券コード：3107)

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ダイワボウホールディングスの西村でございます。  
2024年3月期第2四半期決算についてご説明申し上げます。

1. 2024年3月期 第2四半期決算
2. 2024年3月期 通期業績見通し
3. 次期中期経営計画策定に向けた  
重点検討事項の状況について

【参考資料】

- ▶ 収益認識に関する会計基準の適用について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

本日はこちらの項目に沿ってご説明いたします。

# ダイワボウホールディングス株式会社



本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
設立日	大和紡績として創立 ダイワボウホールディングス設立	1941年4月1日 2009年7月1日
連結従業員数	5,432名（2023年3月末現在）	
資本金	216億9,674万4,900円	
株式	東証プライム市場 証券コード <b>3107</b> / 業種： <b>卸売業</b> <JPX日経インデックス400構成銘柄>	
事業内容	<b>ITインフラ流通事業</b> [中核会社]  <b>ダイワボウ情報システム株式会社</b>	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	<b>繊維事業</b> [中核会社]  <b>大和紡績株式会社</b>	化合繊維、不織布製品、産業資材関連製品、衣料・リビング製品用テキスタイルおよび最終製品の製造販売業
	<b>産業機械事業</b> [中核会社]  <b>株式会社 オーエム製作所</b>	工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業
	その他事業	保険代理店業、エンジニアリング業

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

2

当社の概要です。

3つの事業を有するグループですが、パソコンを主体としたIT関連機器の専門商社であるダイワボウ情報システムが売上の約90%を占めていることから、東証プライム市場での業種も卸売業となっております。

# | 2024年3月期 第2四半期決算

それでは、2024年3月期第2四半期決算についてご報告いたします。

2024年3月期 第2四半期 (2023年4月1日～2023年9月30日)

ITインフラ流通事業で安定的に需要を獲得し増収増益  
上期業績として過去2番目の売上高

**ITインフラ流通事業**

地域密着によるパートナーとの円滑なコミュニケーションにより、企業・官公庁向けを中心に、中型から大型のIT投資案件を安定的に獲得し前期実績を上回る

iKAZUCHI（雷）を通じたサブスクリプション製品の販売も好調に推移  
コンシューマ向け市場は、個人消費の低迷が続き減収であったが、収益改善により増益

**繊維事業**

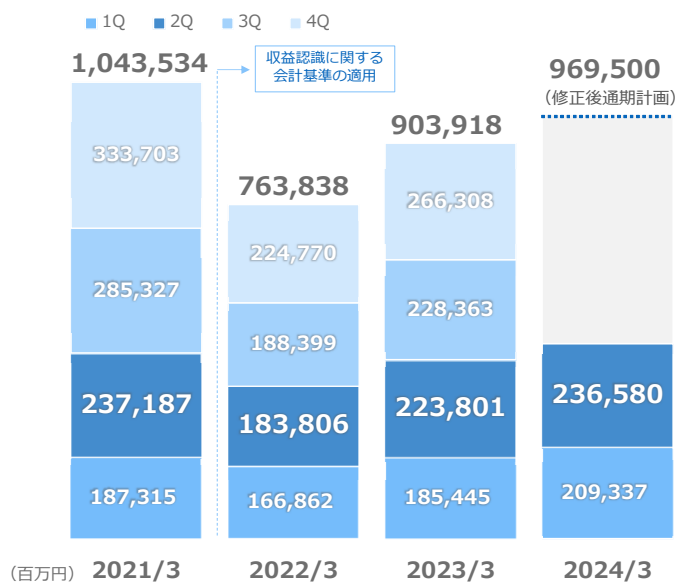
不織布製品は堅調に推移し、機能性レーヨンも好調に推移したが、電子部品業界向けカートリッジフィルターの需要回復の遅れや事業全般で原燃料価格の高止まりの影響を受けたことで利益面で苦戦

**産業機械事業**

高効率タービンで需要のあるエネルギー業界向けが好調に推移し増収増益、航空機業界向け需要は回復基調

当期は、主力のITインフラ流通事業で、企業・官公庁向けを中心に安定的に需要を獲得し、大幅に増収増益となりました。  
各事業の状況については後ほどご説明いたします。

## 2024年3月期 2Q累計 売上高



売上高 **445,917** 百万円

前年同期比 **+9.0%**

進捗率 上期 **101.7%** / 通期 **46.0%**

上期業績として過去2番目の売上高

※通期進捗率については、業績予想修正後の計画に対しての進捗となります。  
 ※「収益認識に関する会計基準」の適用についてはP34に記載しています。

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

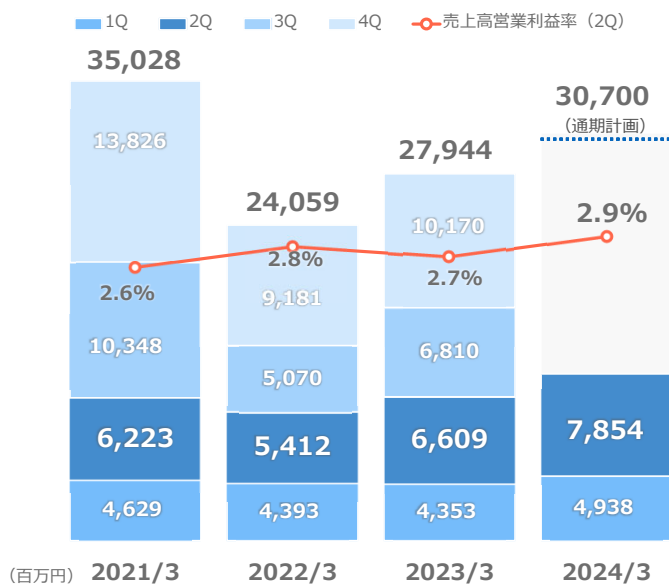
5

こちらは連結売上高の推移です。

第2四半期売上高は4,459億円、前期比で9.0%の増収、計画比101.7%の結果となりました。

売上高としては、Windows更新や消費増税による需要があった2020年3月期に次ぐ過去2番目の上期実績となりました。

## 2024年3月期 2Q累計 営業利益



営業利益 **12,792**百万円

前年同期比 **+16.7%**

営業利益率 **2.9%**

進捗率 上期 **102.8%** / 通期 **41.7%**

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次に営業利益の推移です。

第2四半期は127億円、前期比16.7%の増益となりました。  
 上期計画比は102.8%の結果となりました。

## 2024年3月期 2Q累計 連結決算概況



(百万円)	2023/3 2Q	2024/3 2Q	増減	前期比	修正後 通期予想	進捗率
売上高	409,246	<b>445,917</b>	+36,671	+9.0%	969,500	46.0%
営業利益	10,963	<b>12,792</b>	+1,828	+16.7%	30,700	41.7%
経常利益	11,212	<b>12,933</b>	+1,721	+15.3%	31,000	41.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,670	<b>8,526</b>	+855	+11.2%	20,420	41.8%
1株当たり 四半期純利益 (円)	81.17	<b>91.23</b>				

(百万円)	2023/3	2023/9	増減	主な増減理由
総資産	406,688	<b>401,865</b>	△4,823	受取手形及び売掛金の減少
純資産	143,961	<b>151,746</b>	+7,784	利益剰余金の増加
自己資本比率	35.2%	<b>37.5%</b>		

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

7

第2四半期の連結決算概況はご覧の通りです。

経常利益は、前期比15.3%増の129億円、純利益は、前期比11.2%増の85億円、1株当たり四半期純利益は、91円となっております。

連結財政状態について、  
総資産は受取手形及び売掛金の減少により前期比48億円減の4,018億円、  
純資産は、利益剰余金の増加などにより前期比77億円増の1,517億円となっております。

なお自己資本比率は、37.5%となっております。



## 2024年3月期 2Q累計 セグメント別業績



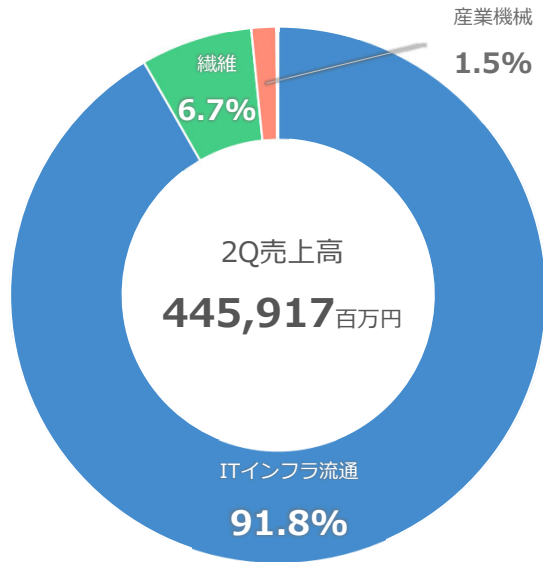
(百万円)		2023/3 2Q	2024/3 2Q	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	371,705	<b>409,237</b>	+37,531	+10.1%
	繊維	31,356	<b>29,679</b>	△1,676	△5.3%
	産業機械	5,804	<b>6,680</b>	+876	+15.1%
	その他	379	<b>320</b>	△59	△15.6%
	合計	409,246	<b>445,917</b>	+36,671	+9.0%
営業利益	ITインフラ流通	9,739	<b>11,593</b>	+1,854	+19.0%
	繊維	718	<b>620</b>	△98	△13.7%
	産業機械	437	<b>521</b>	+83	+19.0%
	その他	58	<b>33</b>	△25	△43.6%
	(調整額)	9	24	+15	+162.2%
	合計	10,963	<b>12,792</b>	+1,828	+16.7%

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

8

つづきまして当期のセグメント別業績です。  
2Q累計での売上げ実績になりますが、ご覧の通りITインフラ流通事業が大きく牽引する結果となりました。

# セグメント構成割合



## 売上高構成割合

	2023/3 2Q	2024/3 2Q
ITインフラ流通	90.8%	<b>91.8%</b>
繊維	7.7%	<b>6.7%</b>
産業機械	1.4%	<b>1.5%</b>

## 営業利益構成割合

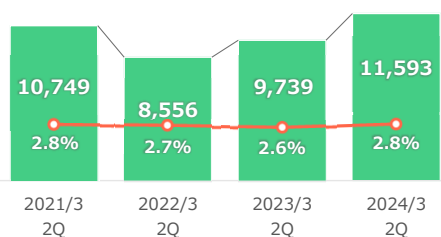
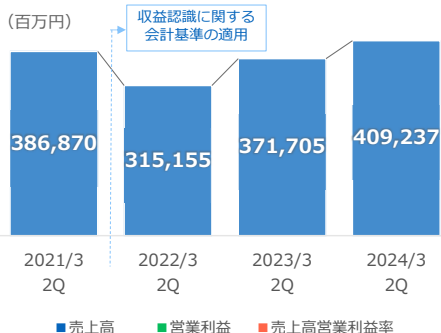
	2023/3 2Q	2024/3 2Q
ITインフラ流通	88.8%	<b>90.6%</b>
繊維	6.6%	<b>4.8%</b>
産業機械	4.0%	<b>4.1%</b>

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

9

セグメントの構成割合はご覧のとおりです。  
ITインフラ流通事業の売上げ構成比は91.8%、営業利益では90.6%となっています。

# ITインフラ流通事業



取扱高 ※旧基準売上高	440,269百万円 (前期比+10.4%)
売上高	409,237百万円 (前期比+10.1%)
営業利益	11,593百万円 (前期比+19.0%)

PC出荷台数	137.8万台 (前期比△4.7%)
サーバー出荷台数	2.5万台 (前期比△9.8%)
サブスクリプション取扱高	48,954百万円 (前期比+17.8%)
iKAZUCHI(雷)取扱高	13,743百万円 (前期比+42.9%)

## 事業概況

### コーポレート向け市場

- 企業・官公庁向けは、PCやサーバー、サービス&サポートの販売が好調で、中型から大型のIT投資案件を安定的に獲得し前期実績を上回る  
iKAZUCHI(雷)を通じたサブスクリプション製品の契約も好調に推移
- 文教市場は、小中学校向け端末導入の谷間の年度であり、教員用端末の購入も需要が落ち着き前年実績を下回る

### コンシューマ向け市場

- 量販店、EC向けともに市場の低迷により減収となるがPC、モニターやプリンタの収益改善により増益

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

10

セグメント別の実績をご説明いたします。

まずはITインフラ流通事業です。

企業・官公庁向けを中心に、中型から大型のIT投資案件を安定的に獲得し、実績が増加しました。

また注力しているiKAZUCHI(雷)についても、順調に契約を伸ばしております。

一方で文教市場は、小中学校向け端末導入の谷間の年度であり、前年実績を下回っております。

コンシューマ向け市場では、個人消費の低迷により減収となりましたが、商品の収益改善により増益となりました。

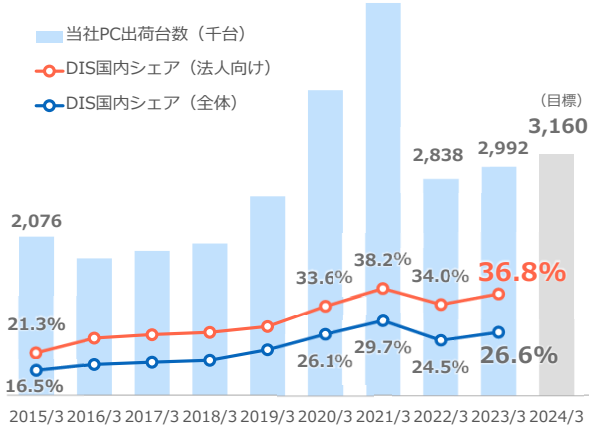
以上の結果、ITインフラ流通事業の売上高は、前期比10.1%増収の4,092億円となり、営業利益は前期比19.0%増の115億円となりました。

# 国内PCマーケットシェア・商品カテゴリ構成



## 通期PCシェア推移

### 法人利用のPC**3**台に**1**台以上**当社**が関与



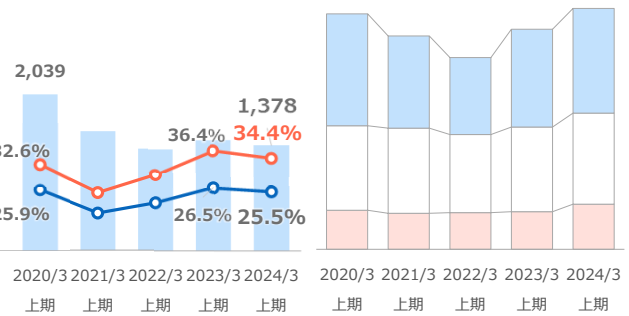
## 上期実績推移

### 国内PCマーケットシェア

法人向け **34.4%**  
全体 **25.5%**

### DISカテゴリ別取扱高

前年比  
PC本体\* **+7.1%**  
周辺機器・サービス等 **+7.6%**  
ソフトウェア **+20.2%**



※MM総研調査結果より算出  
(2024/3上期は調査会社の速報値をベースにしているため、シェアの公表値を変更する可能性があります)

\*PC本体=PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

こちらは国内PC出荷台数における当社のマーケットシェアとカテゴリ別の取扱高推移です。  
中央のグラフをご覧ください。上期のPC出荷台数は137万8千台で、シェアは全体で25.5%、法人向けの市場に限れば34.4%となりました。出荷台数は前期を若干下回りましたが、金額で見ますと、PC単価の上昇により伸長しております。

# サブスクリプションビジネス実績

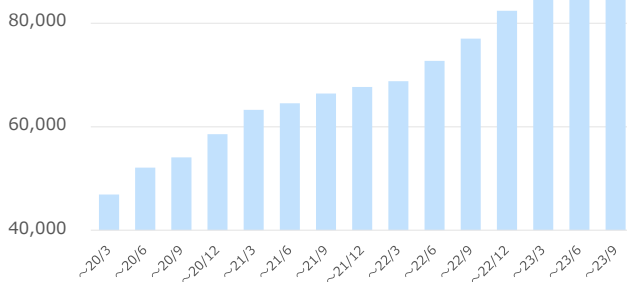


## サブスクリプション取扱高 (DIS単体)

2023/3 上期 **41,546** +17.8% 2024/3 上期 **48,954**

▶直近12か月合計 **95,514**

■ 12か月合計取扱高の推移 (年額課金等を考慮)



### サブスクリプション

課金形態 (月額・年額・従量等) を問わず、ユーザーが契約終了しない限り継続的に収益が見込める商品・サービスとして定義

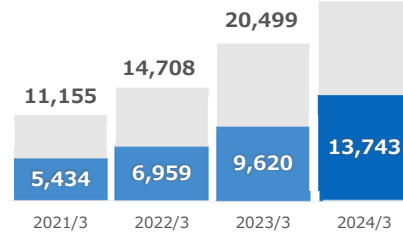
©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

## iKAZUCHI(雷)取扱高

(百万円)

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた販売パートナーへの販売総額

前期比 **+42.9%** 2024/3 目標 **26,000**



### 対応ベンダー・サービス数

115ベンダー 120ベンダー  
230サービス (2023/3) 231サービス (2023/9)

サブスクリプションビジネスの市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



こちらはサブスクビジネスの実績です。

上期の取扱高は、前期比17.8%増の489億円となりました。

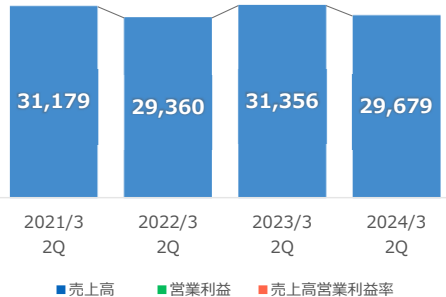
スライド左側の青いグラフで示しているとおおり、継続課金による取り扱い規模は着実に拡大しています。

またDISオリジナルの管理ポータルであるiKAZUCHI(雷)ですが、取り扱いベンダー数やサービスメニューの件数も着実に増え、上期の販売パートナーへの販売総額は、前期比42.9%増の137億4千万円となりました。

# 繊維事業



(百万円)



売上高

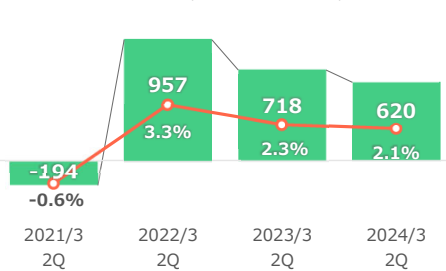
29,679百万円 (前期比△5.3%)

営業利益

620百万円 (前期比△13.7%)

## 事業概況

合織・レーヨン部門	■ 制汗シートやコスメ分野等の販売は堅調に推移し、機能性レーヨンも好調に推移したが、米国向け建材の需要回復が鈍いことや原燃料価格の高止まりにより減収減益
産業資材部門	■ 電子部品業界向けカートリッジフィルターの需要回復は大幅に遅れたが、建設シートやベルト関連、ゴムスポンジは堅調に推移し増収増益
衣料製品部門	■ 国内アパレルが受注回復と価格改定の浸透により採算改善をしたため増益



【ご参考】 21/3 2Qに不適切取引の影響額を反映しております (2020/12/11開示)

	2021/3 2Q	
	影響額	影響除外時
売上高	△640百万円	31,819百万円
営業利益	△1,994百万円	1,800百万円

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

13

続いて繊維事業です。

合織・レーヨン部門では、制汗シートやコスメ分野等の販売が堅調に推移し、機能性レーヨンも伸びを示しましたが、米国向け建材の需要回復が鈍いことや原燃料価格の高止まりもあり、苦戦が続いております。

産業資材部門では、電子部品業界向けカートリッジフィルターの需要回復が、期初の予想に比べて大幅に遅れたものの、建設シートやベルト関連、ゴムスポンジが堅調に推移したこともあり増収増益となりました。

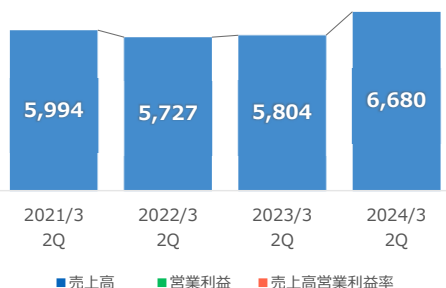
一方で衣料製品部門では、国内アパレルの受注回復と価格改定の浸透により一定の採算改善を行い、増益となりました。

以上の結果、繊維事業の売上高は、前期比5.3%減の296億円、営業利益については、事業全般で原燃料高や円安によるコストアップの影響を受け、前期比13.7%減の6億円となりました。

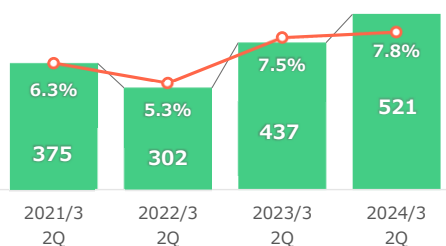
# 産業機械事業



(百万円)



売上高 **6,680**百万円 (前期比+15.1%)  
 営業利益 **521**百万円 (前期比+19.0%)



## 事業概況

- |        |   |
|--------|---|
| 工作機械部門 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本工作機械工業会の4~9月受注総額は前期比17.7%減、活況であった中国の風力発電業界が在庫調整局面を迎え、受注高は前期比7.7%減少</li> <li>■ 前期に受注済みであった中国の風力発電業界への出荷が好調に推移したことや、米国向けに大型機の販売もあり増収増益</li> <li>■ 航空機業界の需要は引き合い件数が増加し回復基調</li> </ul> |
| 自動機械部門 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 受注高が前期比6.9%減少するなかで、本体出荷は堅調に推移し増収したものの、資材価格高騰の影響等を受け減益</li> </ul>   |

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

14

産業機械事業です。

工作機械部門においては、中国の風力発電業界への出荷が好調に推移したことや、米国向けに大型機の販売もあり増収増益となりました。主力の航空機業界ですが、徐々に引き合い件数が増加しており、回復基調にあります。

自動機械部門では、多様化するユーザーニーズに対応し、本体出荷は堅調に推移した結果、増収となったものの、資材価格高騰の影響等を受け減益となりました。

以上の結果、産業機械事業の売上高は、前期比15.1%増の66億円、営業利益は、前期比19%増の5億円となりました。

## 2024年3月期 2Q 連結貸借対照表 (決算短信P4-5)



(百万円)	2023/3	2023/9	増減		2023/3	2023/9	増減
<b>流動資産</b>	354,188	<b>345,683</b>	△8,504	<b>流動負債</b>	231,884	<b>217,735</b>	△14,148
現金及び預金	52,123	<b>56,749</b>	+4,626	支払手形及び買掛金	192,594	<b>179,367</b>	△13,227
受取手形及び売掛金	216,674	<b>198,009</b>	△18,664	短期借入金	12,869	<b>10,991</b>	△1,877
商品及び製品	39,273	<b>48,188</b>	+8,914	<b>固定負債</b>	30,842	<b>32,383</b>	+1,540
<b>有形固定資産</b>	37,127	<b>37,084</b>	△43	長期借入金	13,230	<b>13,600</b>	+370
<b>無形固定資産</b>	2,081	<b>4,177</b>	+2,095	<b>負債合計</b>	262,726	<b>250,118</b>	△12,608
<b>投資その他の資産</b>	13,291	<b>14,920</b>	+1,628	<b>純資産合計</b>	143,961	<b>151,746</b>	+7,784
<b>資産合計</b>	406,688	<b>401,865</b>	△4,823	<b>負債純資産合計</b>	406,688	<b>401,865</b>	△4,823

受取手形及び売掛金	216,674	→	<b>198,009</b>	△18,664	DISの売上債権の減少
支払手形及び買掛金	192,594	→	<b>179,367</b>	△13,227	DISの仕入債権の減少
借入金合計	26,099	→	<b>24,591</b>	△1,507	

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

15

続きまして、貸借対照表について補足させていただきます。

資産の部です。

現預金残高は、前期末比46億円増の567億円となっております。

受取手形及び売掛金は、前期末比186億円減の1,980億円。

商品及び製品は、前期末比89億円増の481億円となっております。

負債・純資産の部です。

支払手形及び買掛金は、前期末比132億円減の1,793億円。

借入金は短期借入金と長期借入金合計で245億円と前期末比15億円減少しております。



## 2024年3月期 2Q累計 連結損益計算書 (決算短信P6)



(百万円)	2023/3 2Q		2024/3 2Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	409,246		<b>445,917</b>		+36,671	+9.0%
売上総利益	31,444	7.7%	<b>36,214</b>	<b>8.1%</b>	+4,769	+15.2%
販売費及び一般管理費	20,480	5.0%	<b>23,421</b>	<b>5.3%</b>	+2,941	+14.4%
営業利益	10,963	2.7%	<b>12,792</b>	<b>2.9%</b>	+1,828	+16.7%
経常利益	11,212	2.7%	<b>12,933</b>	<b>2.9%</b>	+1,721	+15.4%
特別利益	58		<b>0</b>			
特別損失	44		<b>25</b>			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,670	1.9%	<b>8,526</b>	<b>1.9%</b>	+855	+11.2%

特別損失 関係会社株式評価損 (23百万円)

同じく損益計算書となります。

売上高、各利益についてはサマリーで報告した通りですが、  
 売上総利益については、前期比47億円増の362億円となりました。  
 売上利益率は前期の7.7%から0.4%向上し8.1%となっております。  
 販売費及び一般管理費は、従業員に対する給与のベースアップ等により、  
 前期比29億円増の234億円となりました。

## | 2024年3月期 通期業績見通し

続きまして、2024年3月期の業績見通しについてご説明します。

## 2024年3月期 通期業績予想



(百万円)	2023/3 (実績)	2024/3		増減額 ※	前期比 ※
		期初予想 (5/15開示)	修正予想 (11/9開示)		
<b>売上高</b>	903,918	950,000	<b>969,500</b>	+65,581	+7.3%
ITインフラ流通	828,997	872,700	<b>894,300</b>	+65,302	+7.9%
繊維	61,980	63,680	<b>61,220</b>	△760	△1.2%
産業機械	12,170	13,000	<b>13,360</b>	+1,189	+9.8%
<b>営業利益</b>	27,944	30,700	<b>30,700</b>	+2,755	+9.9%
ITインフラ流通	25,394	26,550	<b>27,905</b>	+2,510	+9.9%
繊維	1,499	2,955	<b>1,600</b>	+100	+6.7%
産業機械	886	1,150	<b>1,150</b>	+263	+29.7%
<b>経常利益</b>	28,608	31,000	<b>31,000</b>	+2,391	+8.4%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	19,059	20,420	<b>20,420</b>	+1,360	+7.1%

※修正予想の対前期比較

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

18

2024年3月期の通期業績予想です。

好調なITインフラ流通事業の牽引により、連結売上高を9,695億円に修正いたしました。営業利益については、繊維事業において高止まりする原材料価格や海外需要の低迷などの要因が影響しており、307億円と据え置きしております。

# ITインフラ流通事業の重点施策



## ITデバイス流通におけるカテゴリごとのシェア獲得

- ▶ PC更新需要の獲得に向けたパートナーへの情報収集強化
- ▶ IT機器ラインナップの強化と多様な購入形態への対応
- ▶ 端末活用・STEAM教育推進等による文教市場でのシェア向上

## 高度サポート機能の実装・強化

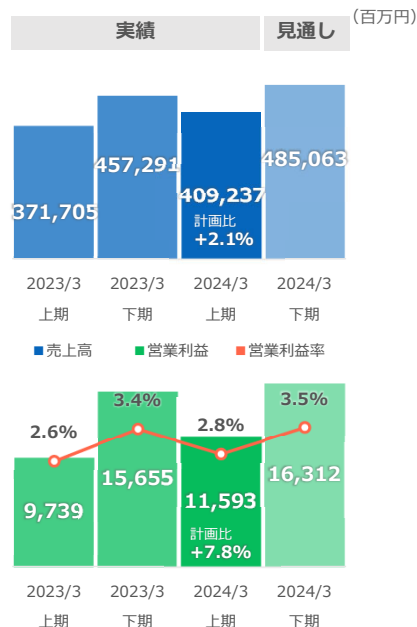
- ▶ 高度化するIT基盤の支援体制強化と中核メーカーとの協業深化
- ▶ オリジナルサービスの拡充とATS連携の推進

## クラウドディストリビューターとしてのブランディング

- ▶ iKAZUCHI(雷)の機能拡充とブランディング強化
- ▶ クラウドシフト提案推進によるメガクラウド市場でのシェア拡大

## サプライチェーン全体につながる生産性向上

- ▶ RPA・BIツール等の活用による営業活動強化、SFA活用による戦術化支援などの継続的な情報システムへの投資
- ▶ 電子商取引の活用等によるローコストオペレーションの推進



©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次に各事業における24年3月期の重点施策についてご説明します。

まずはITインフラ流通事業です。

既存のビジネス領域の拡大とあわせて、クラウドをはじめとした成長分野におけるマーケットの創造と、サプライチェーン全体につながる生産性向上に取り組みます。

また、来年度に本格化するPCリプレースの情報を確実に収集し、需要を獲得して着実な成長につなげてまいります。

# 繊維事業の重点施策



## ESGを軸にした働き甲斐のある会社への変革

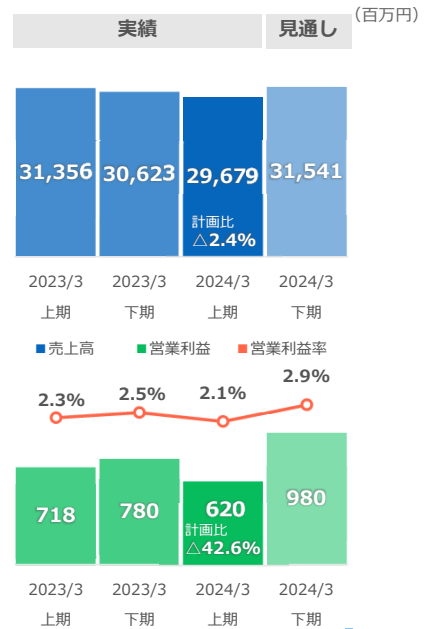
- ▶ 業務フローのシステム化と現場現物重視の監査・チェック体制の強化によるコンプライアンス経営の徹底
- ▶ 人事諸制度の見直しや新制度の導入、社員教育の拡充等による働きやすい環境の整備

## ファイバー戦略の深耕による独自素材の開発強化

- ▶ グループの事業横断的な研究体制により『当社の強み』と『機会』を捉え、次世代の柱となる商品を創造する研究開発活動
- ▶ 当社保有のコア技術を基盤とした環境配慮型製品の創造による持続可能な社会への貢献

## 投下資金効率を意識した事業活動

- ▶ 企業価値向上に向けた新たな成長機会に対する効果的投資
- ▶ 衛生素材の新規顧客・用途開拓強化と、機能性レーヨンの海外市場開拓などの経営資源の重点的な配分



©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

続いて繊維事業です。

市場環境としては、厳しい状況が続いていますが、コーポレートガバナンスの強化により、しっかりとした管理体制を整えた上で、研究開発機能の拡充、経営資源の最適配分を意識して事業活動に取り組んでおります。

# 産業機械事業の重点施策



## 工作機械における潜在市場への事業拡大

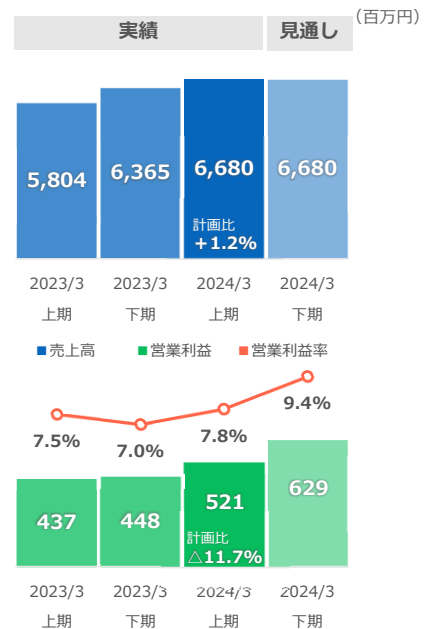
- ▶ 国内、米国、中国の地域で汎用機の在庫機台を増やし、今秋には小型機RT-915シリーズの計画生産も開始させる
- ▶ 短納期、即納を求める顧客ニーズに対応し機会損失の解消
- ▶ 航空機業界の海外市場への販売活動強化

## 自動機械における包装機自動化需要の取り込み

- ▶ 食品・製菓業界向けに連続カートナー、薬品業界向けに間欠カートナーをリニューアルし販売促進
- ▶ 海外調達強化によりコスト低減
- ▶ 中国市場でのサービス体制を強化し、競争力向上

## サービス強化による収益力向上

- ▶ 外部サービス会社とのアライアンスを強化しサービス体制の継続的な強化
- ▶ サービス拡大に向けた社内教育により若手営業員、技術者の底上げを行い、顧客満足度向上



©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

次に産業機械事業です。  
 主力の航空機業界が回復基調にあり、海外市場での営業体制を強化しております。  
 また、中国市場での自動機械の需要取り込みのため、現地サービス会社とのアライアンスを強化し競争力向上を図っております。

- 対象期間 **2022年3月期～2024年3月期** (3カ年計画)
- 位置づけ **「将来にわたる発展を見据えた転換期」**
  - ▶ 持続的成長に向けた『**ビジネスモデル変革**』への挑戦期間
  - ▶ ESG視点での事業を通じた**社会課題解決への貢献**
  - ▶ 未来を創る**人材価値の最大化**

### グループ 基本方針

- 01 次世代成長ドライバーの創出**
- 02 リーディングカンパニーとして新たな社会作りへの貢献**
- 03 経営基盤変革**

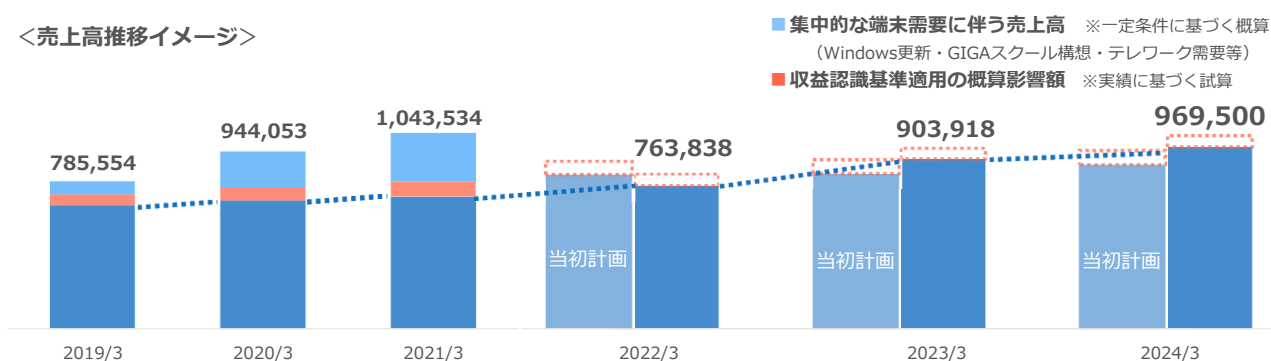
続いて、2021年5月に発表した中期経営計画について振り返りたいと思います。当社グループではこの3年間で「将来にわたる発展を見据えた転換期」と位置づけ、ビジネスモデルの変革やESG視点での事業運営、人材育成に注力しております。

## 中期経営計画の進捗状況 <収益指標>



(百万円)	2022/3		2023/3		2024/3	
	(当初計画)	(実績)	(当初計画)	(実績)	(計画)	(修正予想)
売上高	820,000	<b>763,838</b>	830,000	<b>903,918</b>	<b>875,000</b>	<b>969,500</b>
営業利益	28,500	<b>24,059</b>	28,600	<b>27,944</b>	<b>31,400</b>	<b>30,700</b>
営業利益率	3.5%	<b>3.1%</b>	3.5%	<b>3.1%</b>	<b>3.6%</b>	<b>3.2%</b>

### <売上高推移イメージ>



©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

中期経営計画の収益指標に対する進捗状況をご説明します。  
 初年度の実績は、売上高・営業利益ともに当初計画を下回ることとなりました。  
 2年目となる昨期については、当初計画に対して売上は大幅増加も、営業利益は減益となりました。  
 最終年となる今期は、売上は増加予想ですが、営業利益は減益となる見通しです。



## 中期経営計画の進捗状況 <グループ経営指標>



### ROE 14%以上

自己資本当期純利益率  
<株主資本に対するリターン>

2022/3実績 12.9%    2023/3実績 13.7%    2024/3予想 14.0%

### ROIC 11~12%水準維持

投下資本利益率  
※税引後営業利益 / (純資産 + 有利子負債)  
<投下資本に対するリターン>

2022/3実績 10.4%    2023/3実績 11.6%    2024/3予想 12.1%

株主資本コスト

8.6%

(現状の自社認識)

WACC  
加重平均資本コスト

7.0%

(現状の自社認識)

持続的な  
企業価値向上

次にグループ経営指標のROEとROICについて、初年度の実績を振り返りたいと思います。ROEの23年3月期の実績は13.7%となりました。こちらは今期14%以上という目標の達成を目指しています。

またROICについては、11~12%の水準を3年間維持することを目標としており、23年3月期には11.6%となり、引き続き資本効率を意識した経営を徹底することで改善を図ってまいります。

# 中期経営計画 キャッシュ配分方針



## 基本方針

- 株主還元の充実化を適切に図る
- 既存事業の持続的成長に向けた投資を継続しつつ、新規領域への成長投資を実施
- 一定の手元流動性を確保し、戦略的な商品調達や不測の事態に備える

<キャッシュ配分項目>

配当	既存領域への成長投資	新規領域への成長投資	自己株式取得	手元流動性の確保
<p><b>1株当たり60円</b> (中間配当含む) の安定配当を基本方針としてキャッシュ状況にあわせて増配なども検討</p> <p>2024年3月期 配当予想 中間<b>32円</b>+期末<b>32円</b></p>	<p>既存事業の持続的成長に向けて<b>設備投資・マーケティング・研究開発・人材採用</b>などを行う</p>	<p>市場拡大が見込まれるDX関連領域を中心に<b>新たな事業の柱を育てるべく業務提携やM&amp;Aの検討</b>を開始</p>	<p>市場環境に応じて<b>機動的な自己株式の取得</b>を検討</p> <p>今期も継続実施を検討中</p>	<p>ITインフラ流通事業における戦略的な商品調達に伴う資金需要および不測の事態に備えた<b>手元流動性の確保</b></p>

キャッシュ配分方針については、1株あたりの配当を中間32円、期末32円、合計64円を予定しております。  
また、今期も自己株式の取得を検討しており、株主還元の充実化を適切に図ってまいります。

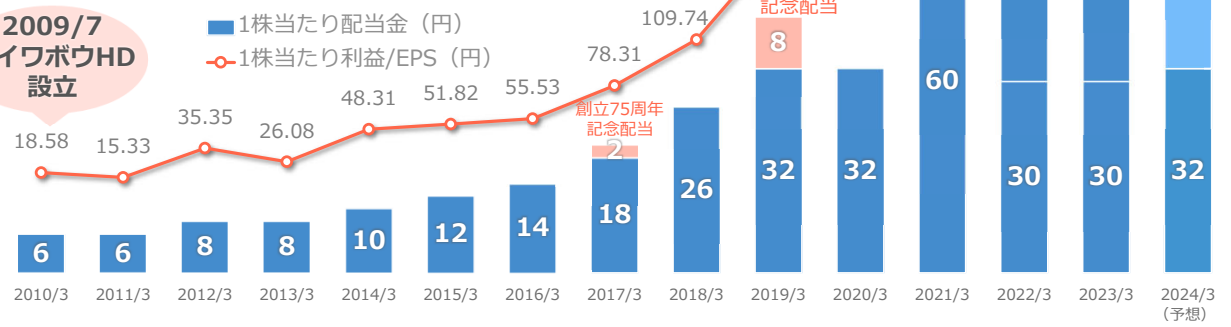
# 株主還元



	2023年3月期		
	中間	期末	年間
1株配当	30円	32円	62円
自己株式取得	約30億円 (2022/5/13~10/31)		
配当性向	30.6%		
総還元性向	46.2%		

	2024年3月期 (予想)		
	中間	期末	年間
1株配当	32円	32円	64円
自己株式取得	今期も継続実施を検討中		
配当性向	29.5%		
総還元性向	-		

2009/7  
ダイワボウHD  
設立



※株式併合 (2017/10/1) ・株式分割 (2021/4/1) を過年度に遡及して表示

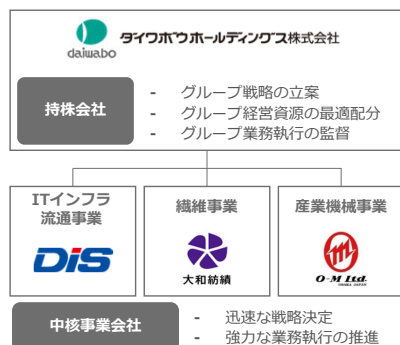
©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

ダイワボウホールディングス設立以降の、1株あたりの配当金およびEPSの推移はご覧の通りです。  
繰り返しになりますが、24年3月期の配当については64円を予定しております。

# グループガバナンス



## グループ各社の責任と権限の明確化



## 取締役会の独立性・多様性確保

独立社外取締役比率 **62.5%**

女性取締役比率 **25%**

## スキルマトリックス

氏名	役職	企業経営 全般	経営企画 経営戦略	法務 コンプライアンス ガバナンス	財務・会計 ファイナンス	人事労務 人材開発 ダイバーシティ	ICT DX 関連	ESG SDGs	国際性
西村 幸浩	代表 取締役社長	●	●	●	●	●	●		
安田 充成	取締役	●	●		●	●	●		
猪狩 司	取締役	●	●	●			●	●	
土肥 謙一	社外 取締役	●	●	●				●	●
中村 一幸	社外 取締役	●	●	●			●	●	
吉丸 由紀子	社外 取締役	●	●	●		●		●	●
藤木 貴子	社外 取締役	●	●			●	●		●
堀 哲朗	社外 取締役	●	●	●	●		●		●
小野 正也	常勤 監査役			●	●				
植田 益司	社外 監査役			●	●				
角石 紗恵子	社外 監査役			●					

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

27

続きまして、グループガバナンスについてご説明します。

当社グループでは、各社の責任と権限を一段と明確にすることで、各事業会社3社が、それぞれの事業の中核として迅速な戦略決定と強力な業務執行の推進を担っています。

その中で、ダイワボウホールディングスは、大局的見地からグループ全体を俯瞰してグループ戦略の立案など、監督機能の強化を図っております。

また当社の取締役会は、独立社外取締役が5名、うち女性取締役が2名、そして社内取締役3名で構成されており、独立性および多様性を確保できております。

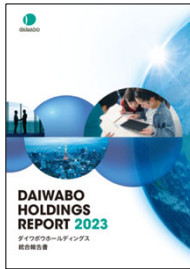
これにより、中長期的な企業価値向上に向けて、より一層のグループガバナンスの強化を図ってまいります。

また、当社の取締役会や監査役会に求めるスキル構成を示したスキルマトリックスも公開しております。

# 「統合報告書2023」 11月に初発行

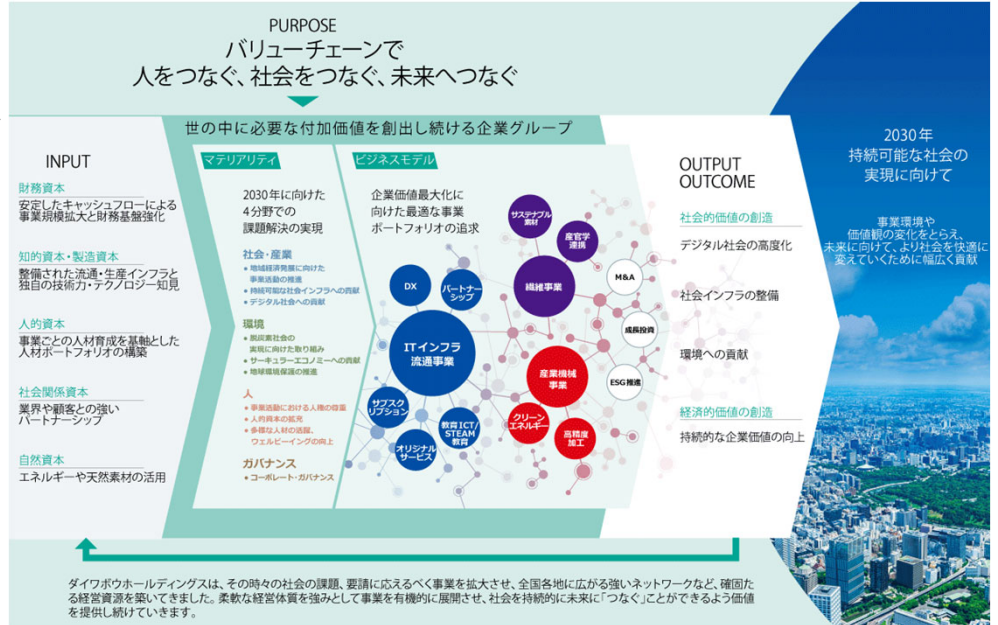


本報告書では、あらゆるステークホルダーの皆さまに当社のパーパスや価値創造プロセスなどを分かりやすくお伝えすることを目指し、事業戦略や業績、コーポレート・ガバナンス、環境、社会への取り組みなど、財務情報と非財務情報を統合的にまとめたレポートとなります。



ダウンロード用QR

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.



当社として、初めての発行となる統合報告書を、今月公開いたしました。ぜひ多くの皆さまにご覧いただければと思います。

なおここで発表しております、パーパスにつきましてはこの後ご説明いたします。

## 次期中期経営計画策定に向けた 重点検討事項の状況について

5月に発表させていただきました、「次期中期経営計画策定に向けた重点検討事項」の状況についてご説明させていただきます。

# 次期中期経営計画での重点検討事項について



2024年5月発表予定の次期中期経営計画策定に先立ち重点検討事項と検討体制を整理  
当社グループの存在意義を「パーパス」として再定義し、経営計画への落とし込みを推進中

検討事項	概要	現状のステータス	
<b>全社パーパスの確立 と成長戦略の策定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 当社グループのアイデンティティを見定め、社会的な時流と会社組織のDNAを踏まえたパーパスを確立</li> <li>■ 会社として何をコアとして、そこを起点にどのように収益性を最大化し、当社の社会的意義を実現していくかという観点で成長戦略を策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>当社グループのパーパスを新たに策定し、2023年11月発行の統合報告書にて価値創造プロセスとあわせて発信</b></li> <li>■ 策定したパーパスを軸に、成長分野と当社が提供する付加価値のあり方を検証しながら成長戦略を検討中</li> </ul> <p>※パーパスは次ページに記載</p>	
<b>グループ全体での 価値最大化に向けた 最適な事業ポート フォリオの確立</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経済産業省策定の事業再編実務指針等を参考にしながら、既存事業についてベストオーナー原則と事業環境評価、資本収益性を検証した上で、企業価値最大化のために適切なタイミングで戦略的選択肢を実行し、最適な事業ポートフォリオを確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 繊維事業については、企業価値最大化に向けた戦略的選択肢としてグループからの独立化を検討中</li> </ul> <p>※大和紡績を交えた具体的な協議を開始しており、株主・従業員・取引先等にとって適切な方法で繊維事業の価値向上に寄与する選択肢を検討</p>	<b>継続中</b>
<b>成長投資と株主還元 の最適化の実現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 資本コストを踏まえた最適な成長投資と株主還元を実現し、企業価値の向上を目指すキャピタルアロケーションの方針を策定</li> <li>■ 「ヒト・モノ・カネ」のリソース配分の最適化と、株主へのリターンを最大化できる資本政策の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各事業会社で生み出された収益の配分方針について、それぞれの事業ごとの業績拡大に向けた成長投資のみを優先するのではなく、グループ全体としての収益性の最大化を目指すためのキャピタルアロケーションを検討中</li> </ul>	<b>継続中</b>

先ほど統合報告書の発行で触れましたが、まずは、当社グループの「パーパス」を策定いたしました。  
社会的な時流と会社組織のDNAを踏まえて制定したこのパーパスに基づき、これからのグループ成長戦略を策定してまいりたいと思います。  
パーパスについては次ページで補足説明させていただきます。  
なおその他の事項については、引き続き検討を進めており、決定事項がありましたら、適切なタイミングで開示させていただきます。

## 私たちの存在意義 Purpose

### バリューチェーンで 人をつなぐ、社会をつなぐ、未来へつなぐ

さまざまな社会活動を構成しているバリューチェーン（価値連鎖）の中で、ビジネスに携わる人々、企業、地域社会をつなぎ、結びつけることが当社グループの存在意義ととらえています。「パートナーシップ」に重きをおき、バリューチェーン全体のブランディングを図り、当社グループの力だけでは解決が難しい社会課題に対しても、有機的に連携・協調することで総合力を発揮してまいります。

また、「未来へつなぐ」には、多様で先進的なIT製品・サービスの普及、日々の暮らしや多くの産業に貢献できる研究開発の追求により、常に新しいテクノロジーを探求し実際に触れる中で、それをバリューチェーンに還元していくことで、未来における「快適さ」や「安心と安全」、そして「人と社会の幸せ」の実現を目指すメッセージが込められています。現代社会におけるインフラを支えるだけでなく、事業環境や価値観の変化をとらえ、未来に向けて、より社会を快適に変えていくために幅広く貢献していきます。

パーパスについて簡単にご説明します。

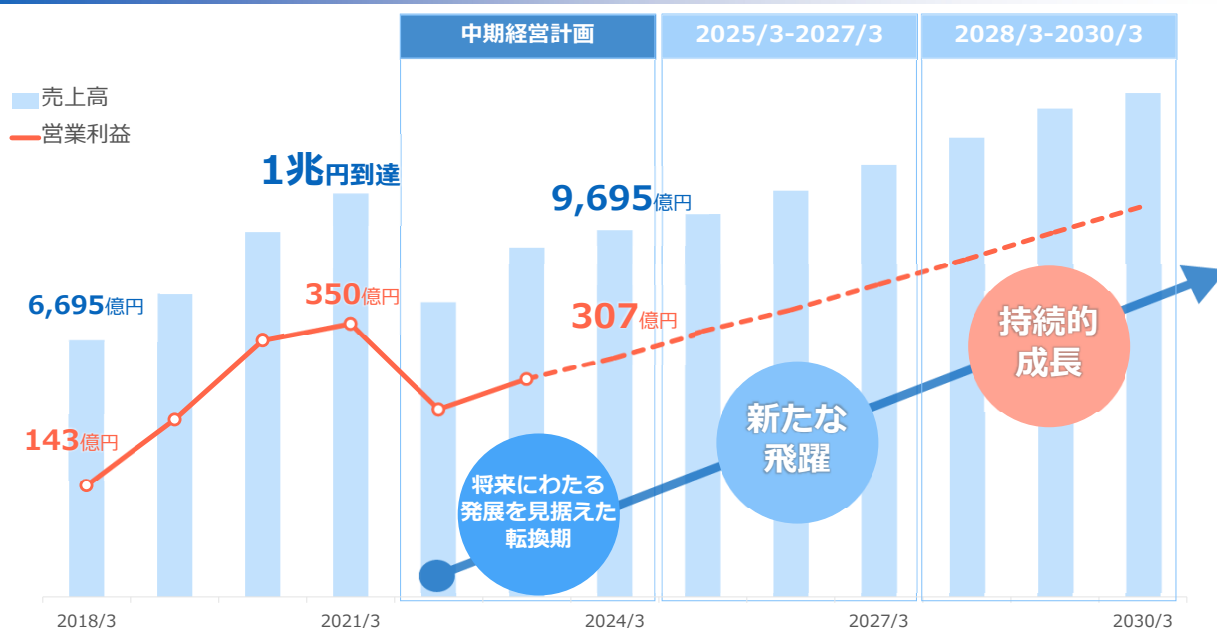
私たちの存在意義を示すこのパーパスは当社グループの社会的な存在意義や価値提供についての長期ビジョンを示したものであり、2030年に向けたマテリアリティを包括したメッセージとなっています。

「バリューチェーンで 人をつなぐ、社会をつなぐ、未来へつなぐ」という文言には、私たちの「想い」と「誇り」が込められています。さまざまな社会活動を構成するバリューチェーンの中で、当社グループは重要な役割を担い、ビジネスに携わる人々や企業、地域社会をつなぎ、結びつけることで価値を創出して参ります。

今後は、このパーパスを起点として、事業環境の変化に対応するエクイティストーリーの策定に取り組んでまいります。



# 2030年を見据えて



©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

最後に今後の成長イメージをあらためてお伝えしたいと思います。  
 次期中期経営計画では、先ほどご説明させていただきました3つの重点検討事項  
 に関する検討結果を開示する予定です。  
 新たな飛躍と持続的な成長を目的に、グループを挙げてステークホルダーの皆様  
 から長く信頼いただける会社を目指してまいります。  
 これからもご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
 説明は以上となります。  
 ご清聴いただき、ありがとうございました。

## 参考資料

- ▶ 収益認識に関する会計基準の適用について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

# 収益認識に関する会計基準の適用について



2022年3月期より企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」を適用  
ITインフラ流通事業の一部取引について売上高の計上方法を変更

(百万円)		2022/3	2023/3	増減
売上高	①旧基準	828,706	962,233	+133,526 +16.1%
	②新基準	763,838	903,918	+140,079 +18.3%
	②-①	△64,867	△58,314	
営業利益		24,059	27,944	+3,885 +16.1%
営業利益率	①旧基準	2.9%	2.9%	
	②新基準	3.1%	3.1%	

## <主な変更点>

### ■代理人取引に係る収益認識

ITインフラ流通事業における保守・保証サービス、ソフトウェア（継続課金等）販売などの取引の一部について、販売先への商品・サービスの提供における当社の役割が、会計基準上の「代理人」に該当するため収益認識の方法を変更

【旧基準】：販売対価の総額 (A) を売上計上



【新基準】：販売対価の純額 (A-B) を売上計上



## (補足) ITインフラ流通事業の「取扱高」について



**取扱高**  
Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出  
(=会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



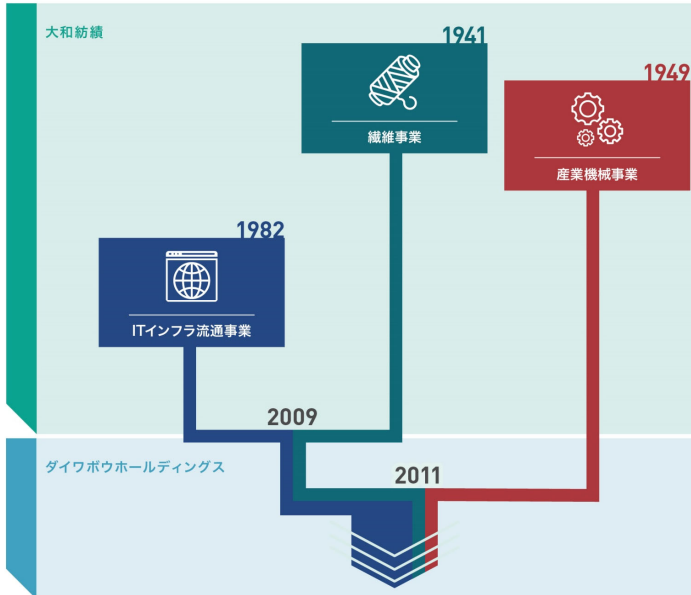
「収益認識に関する会計基準」  
適用による影響額  
(2022/3期～)

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

**売上高**  
Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

# グループの沿革



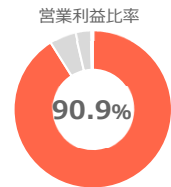
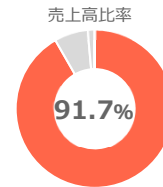
- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 ▶大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立  
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11 ▶オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 ▶ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 3 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 ダイワボウホールディングスがオーエム製作所と経営統合 ⇒**現在の主力3事業体制へ**

# 事業セグメントの概要



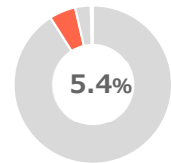
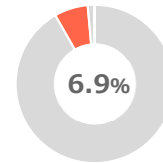
## ITインフラ 流通事業

**IT関連商品を取り扱う国内最大級のディストリビューター**  
全国94拠点での地域密着営業によるパートナー企業との協業体制が強み  
特定のメーカーに特化しない独立系マルチベンダーで、PCをはじめとした  
世界中のメーカー約1,400社の商品・サービスを販売



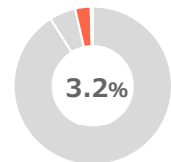
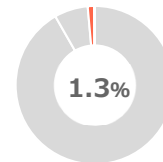
## 繊維事業

**合織・レーヨン部門** 紙おむつ等の衛生材料用途の合繊綿、生分解性の高いレーヨンなどの繊維素材・製品を展開  
**産業資材部門** 工業資材、フィルター製品、土木資材・重布製品、ゴム製品などの産業領域の繊維製品を展開  
**衣料製品部門** 各種繊維原料および機能性インナーなど製品の開発と製造販売、ライセンスブランド衣料品の製造販売



## 産業機械 事業

**工作機械部門** 航空宇宙分野などの重工業を中心に活用される工作機械「立旋盤」の国内製造で高いシェア  
**自動機械部門** 食品・医薬品など幅広い業界に対して包装・梱包の自動機械を製作納入



(2023年3月期実績)

# ダイワボウ情報システム (DIS) の歩み



## 1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

## 1983-1984 多店舗展開

- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

## 1998 DIS-NET稼働

- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

## 2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に

1996/3  
1,000億円突破

1999/3  
2,000億円突破

2003/3  
3,000億円突破

2000  
DIS東証1部上場

2012/3  
4,000億円突破

2009  
経営統合

- HD体制の「ITインフラ流通事業」として位置づけ

2014/3  
5,000億円突破

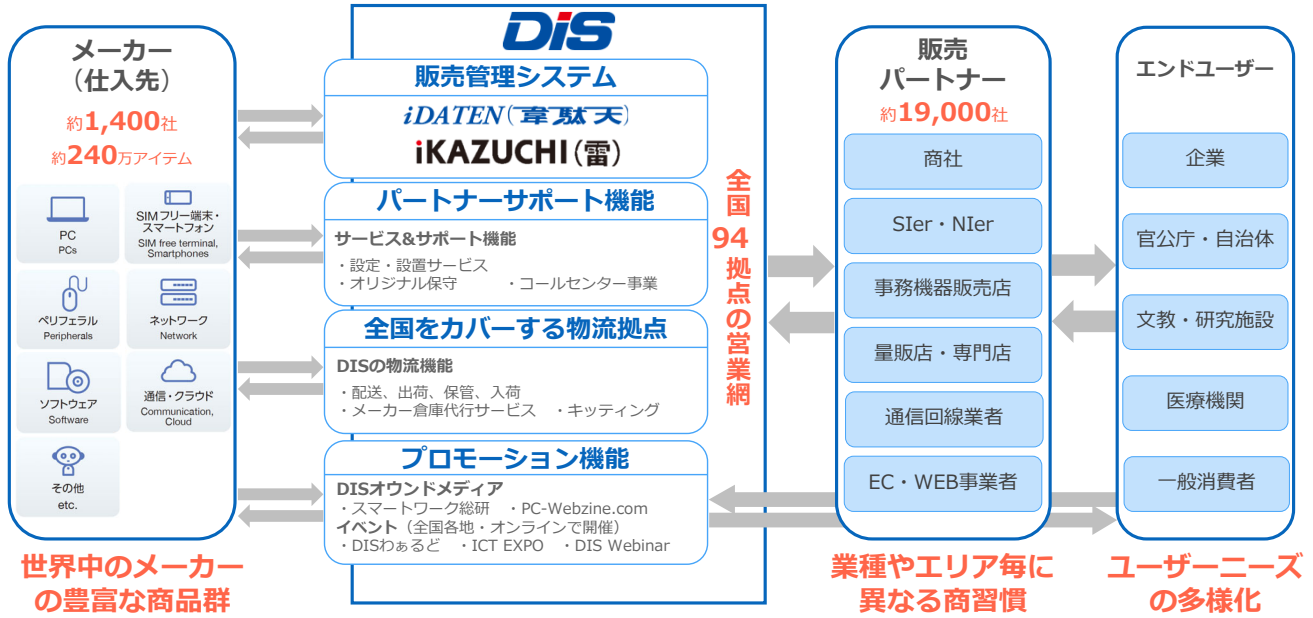
2019/3  
6,000億円突破

2020/3  
8,000億円突破

2021/3  
9,000億円突破

DIS単体  
売上高推移

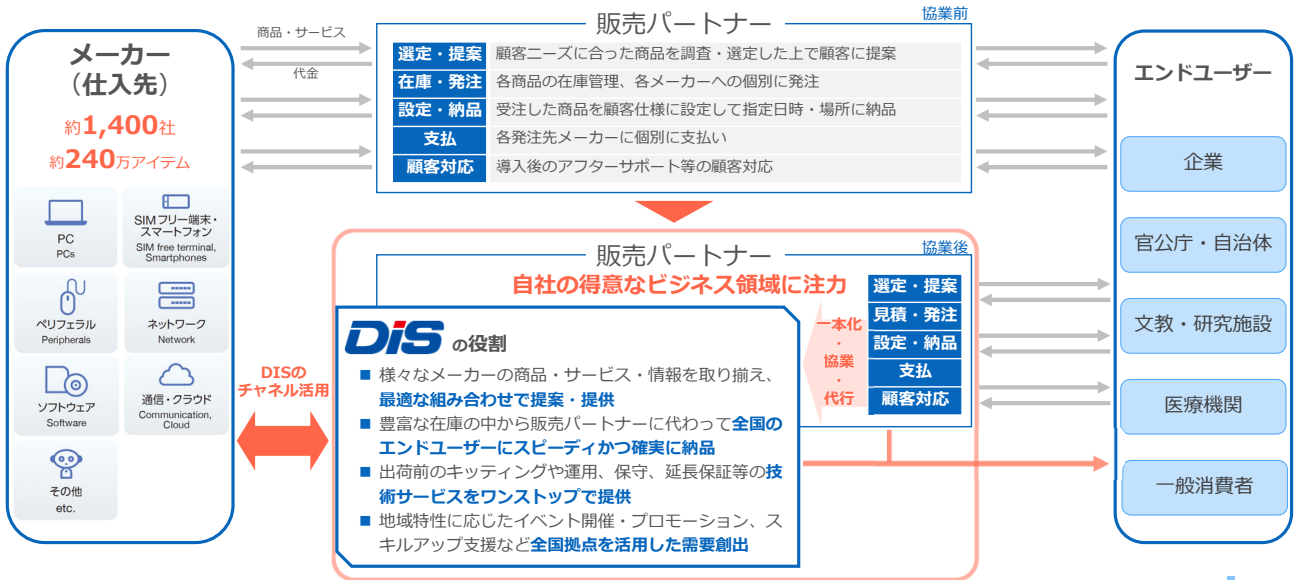
# ITインフラ流通事業の事業構造





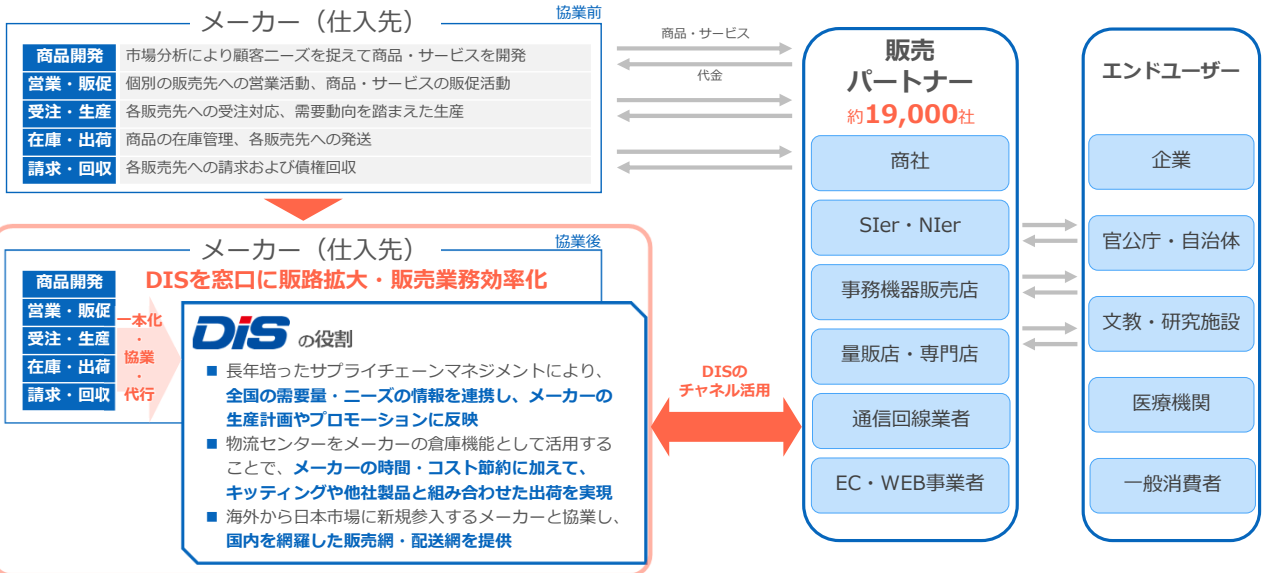
# ディストリビューターの付加価値

## 販売パートナー × DIS



# ディストリビューターの付加価値

## メーカー（仕入先） × DIS



# 物流センター効率化



## 関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働  
倉庫面積：36,342㎡

## 関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働  
倉庫面積：44,753㎡



東西メガセンターを中心に  
効率化・生産性向上に注力

### ロボットストレージシステム

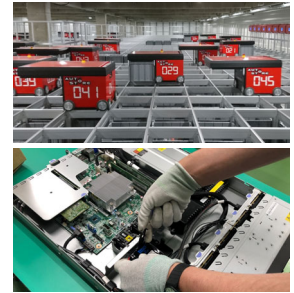
→作業効率・スペース最適化  
【ロボット稼働台数】  
関東中央：45台、関西：30台

### キittingセンター併設

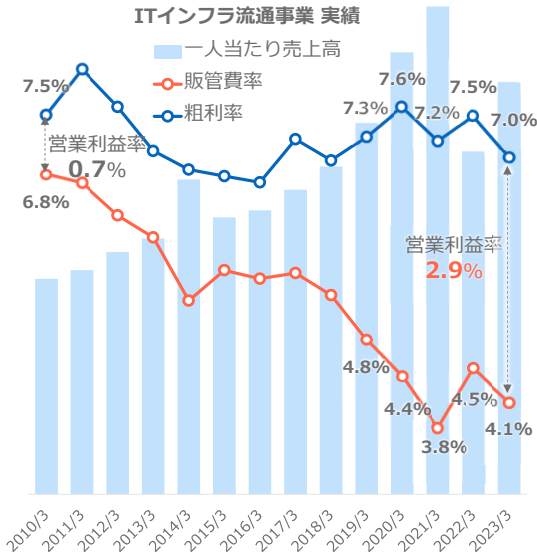
→入荷>作業>出荷に迅速対応  
PC・タブレット  
キitting実績：年間18万台（2023/3期）

### トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



# 営業効率化とローコストオペレーション



※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

## 営業活動強化

戦術に基づく売上拡大  
定型業務の効率化

継続的なシステム投資



## 電子商取引比率拡大

取引先を含めた生産性向上

メーカー  
(仕入先)  
約1,400社

EDI



## 物流効率化

物流コスト抑制  
在庫ロケーション最適化



基幹システム

物流センター

エンド  
ユーザー

# iKAZUCHI(雷)



## サブスクリプション管理ポータル



- 月額/年額/従量などの課金形態に対応
- 顧客単位でリアルタイム管理
- 複数サービスを一括管理
- エンドユーザー向けの情報提供



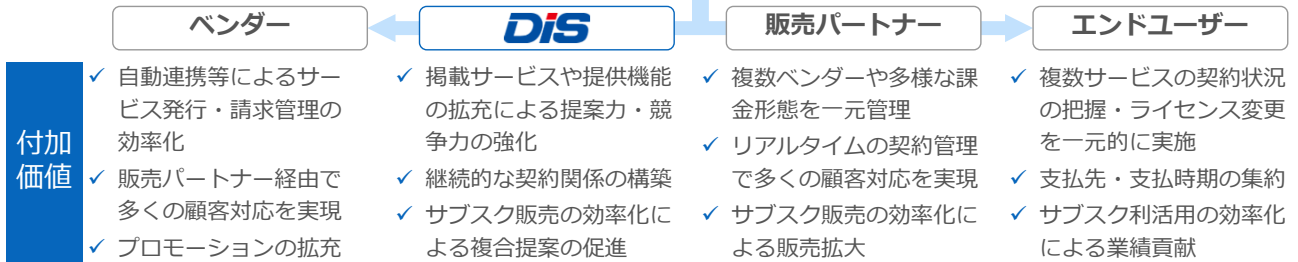
全国の販売パートナーのサブスクビジネスを支援

## iKAZUCHI(雷)掲載サービス

120ベンダー / 231サービス  
(2023年9月現在)

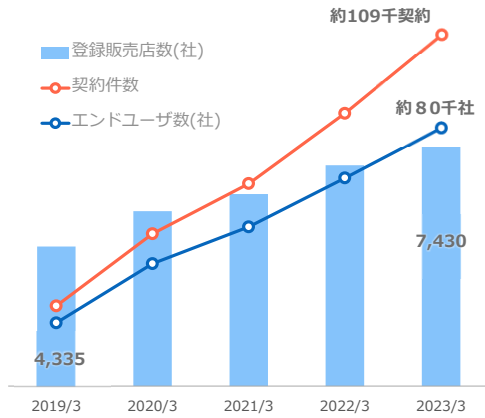


コラボレーション	業務基盤・システム基盤
セキュリティ・管理	デザイン・クリエイティブ
ヒューマン・リソース	営業・マーケティング



**iKAZUCHI(雷)で安定的な収益基盤を確立**

## 登録販売店数の推移

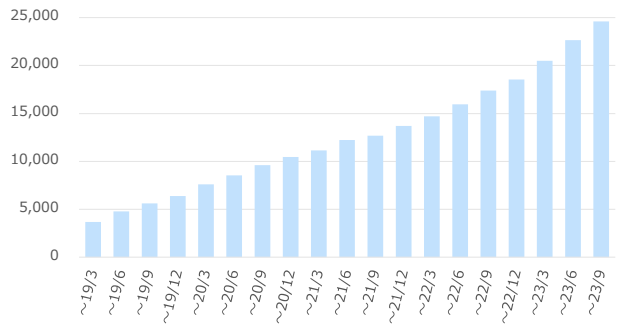


対応ベンダー数

24社 → 38社 → 65社 → 88社 → 115社 → 120社 (2023/9)

## 12カ月合計取扱高の推移 (年額課金等を考慮)

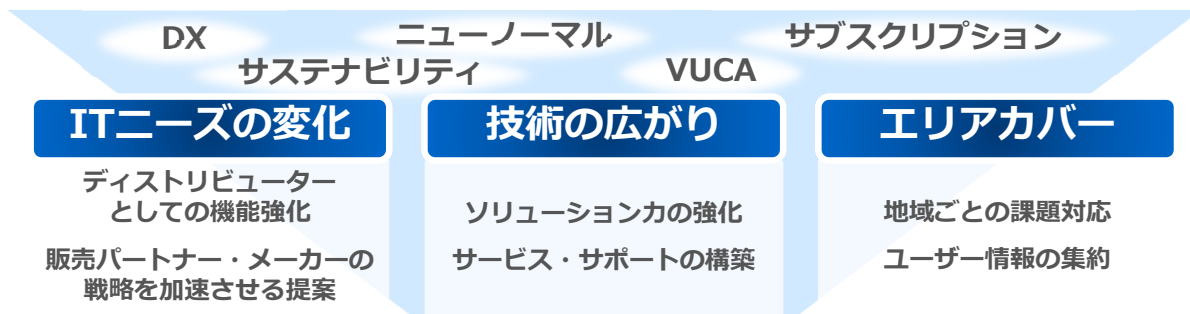
(百万円)



「マルチベンダー」の強みを生かして  
単独ベンダーではできない付加価値を創出



# あらゆるITビジネスを支え続ける企業として



ディストリビューション

**DIS**



ALPHATEC  
SOLUTIONS

ITインフラソリューション

▼2023/4/1付 グループ参入

【顧客ニーズの多様化】と【テクノロジーの多様化】を効率的にマッチングして全国に展開  
パートナービジネスを進化させて「強み」を掛け合わせることで  
ITによってエンドユーザーの目的を実現する新たなビジネスモデルを構築

# 繊維事業 — 製品事例 —



## 合織・レーヨン



- 紙おむつや生理用品などの衛生材用に使用される合成繊維
- 乳幼児用おしり拭きや除菌シート、フェイスマスクなどの生活資材に使用される不織布
- アスベスト代替として使用され、モルタルのひび割れを自己治癒することのできる繊維
- 木材パルプから生産される生分解性の高いレーヨンを使用した不織布製品・衣料製品

## 産業資材



- 化学・電子・食品業界など幅広く活用される不純物をろ過するフィルター
- トラック幌やテント倉庫に使用される重布、防水シートや緑化ネットなどの土木資材
- 自動車部品・家電など多様な用途に使用される高品質ゴムスポンジ製品
- 建設現場の防音シートや養生メッシュなどの各種産業用シート

## 衣料製品



- 機能性インナー、快適アウターなどの衣料製品
- リビング用素材および製品
- ライセンスブランド衣料品  
「FILA」 「NCAA」 「T&C」 「UMBRO」



# 【繊維事業】 継続的な構造改革



## 研究開発機能の強化

分野ごとの研究開発体制を  
播磨研究所に統合

### 環境

- リサイクル
- バイオマス・生分解
- 省エネ・軽量化

### 安全

- 防災・難燃
- 地盤、セメント補強
- 重金属・有害物質吸着

3つの開発キーワードを  
軸とした素材開発

### 健康

- 抗菌・抗ウイルス
- 水・空気浄化
- 肌に優しい素材

産官学連携

マーケットニーズ

コア技術・知的財産

## 生産拠点の集約

産業資材部門工場の移設・集約完了

需要が堅調なフィルターの  
一貫生産体制を構築

ガバナンス強化  
資本効率改善

## 事業会社の再編

- 2020.04 各部門の事業子会社を吸収合併することで大和紡績(株)を中核事業会社化
- 2021.03 香港子会社の解散、海外事務所の閉鎖
- 2021.05 非繊維部門の整理 (ホテル業 終了)
- 2021.09 非繊維部門の整理 (エンジニアリング業 規模縮小)
- 2021.10 衣料製品部門の子会社間合併
- 2022.03 衣料製品部門子会社の株式譲渡
- 2022.06 産業資材部門子会社の株式譲渡 (2社)
- 2023.01 衣料製品部門子会社の営業拠点集約

©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

構造改革にも計画的に取り組んでいます。

分野ごとの研究開発体制の統合や、産業資材部門の工場集約、そして事業会社の再編などを

進めており、引き続き、ガバナンスの強化と資本効率の改善を重視した経営を徹底してまいります。

特に研究開発については、環境・安全・健康の3つの開発キーワードを軸に開発成果の最大化と持続可能な社会への貢献に取り組みます。



## 立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,500**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

## 車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

## 自動機械



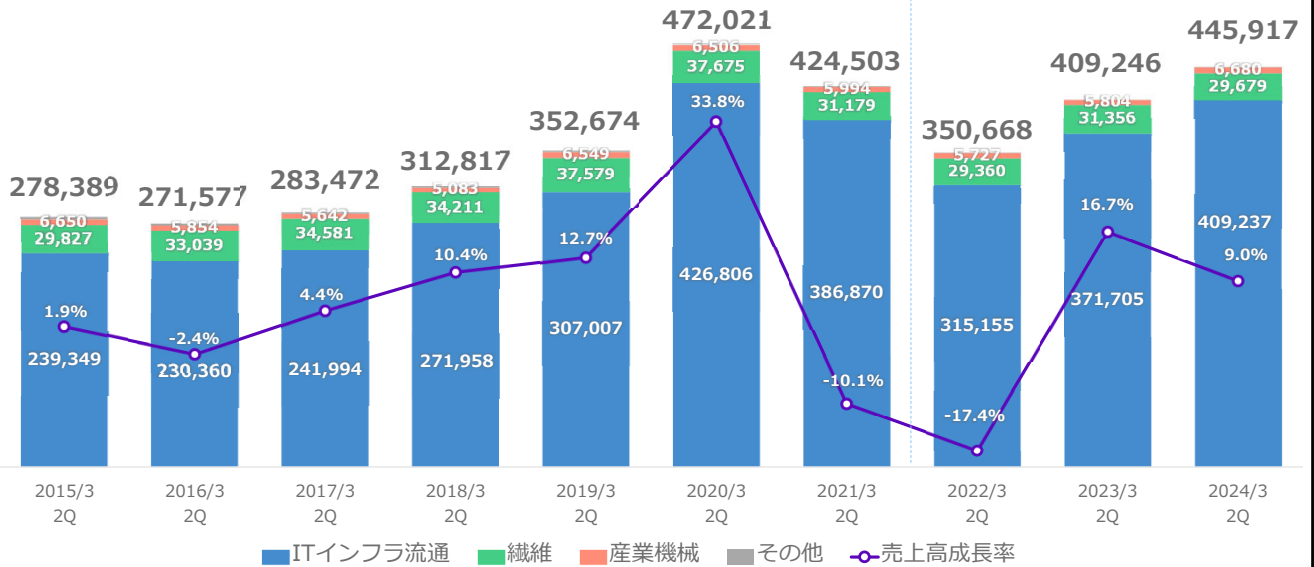
- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

# 連結売上高（2Q累計期間）



(百万円)

収益認識に関する  
会計基準の適用

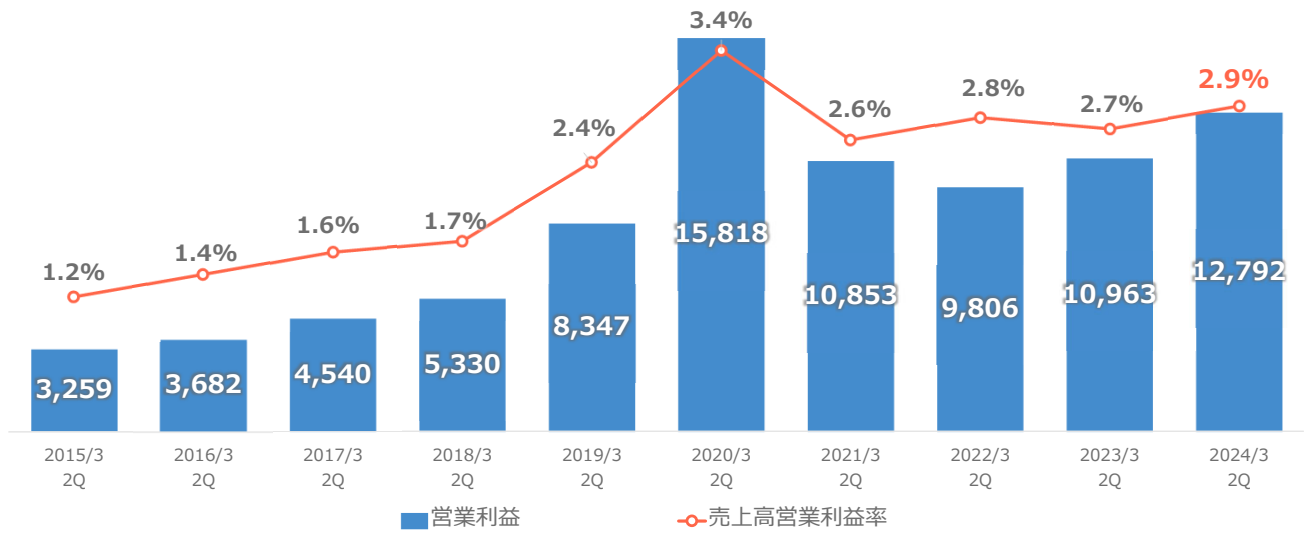


©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 連結営業利益（2Q累計期間）



(百万円)

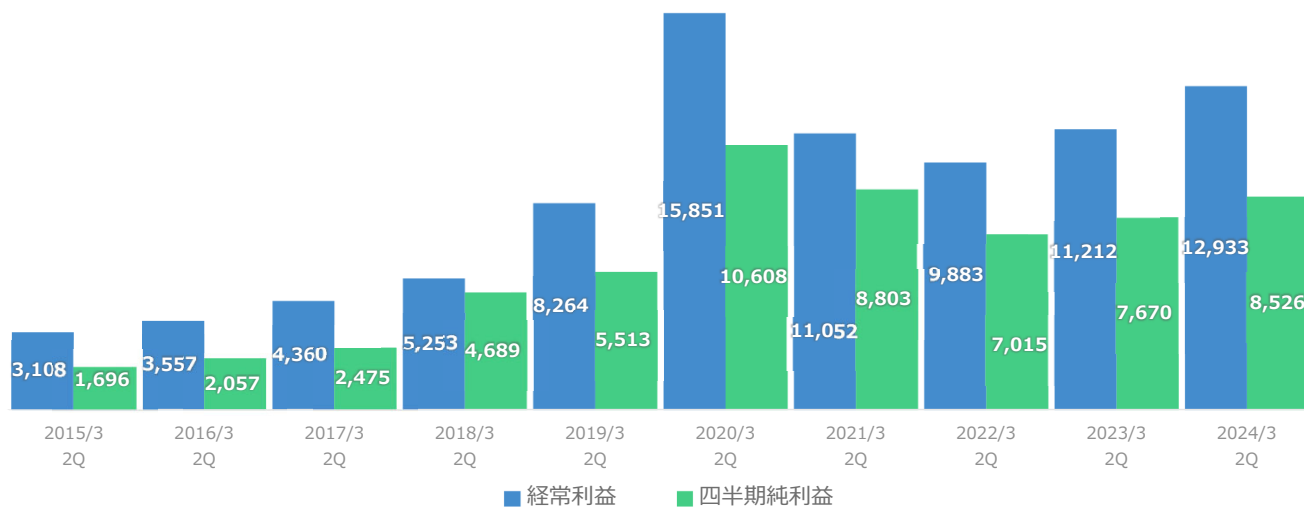


©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 連結經常利益・連結四半期純利益（2Q累計期間）



(百万円)

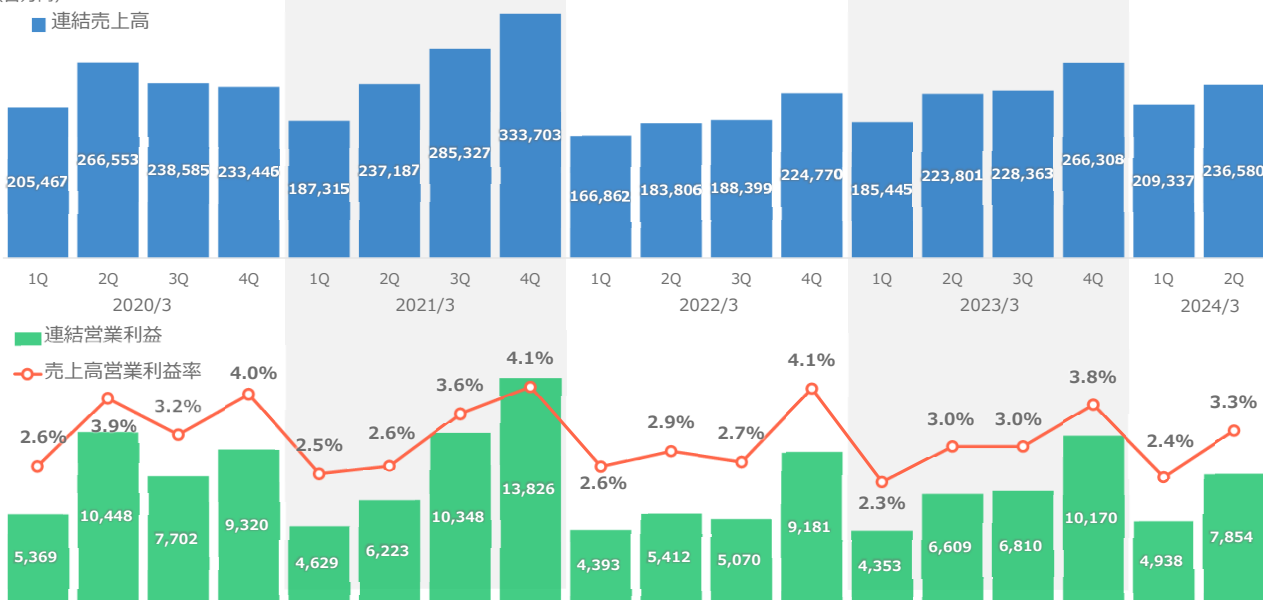


©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 四半期別業績



(百万円)

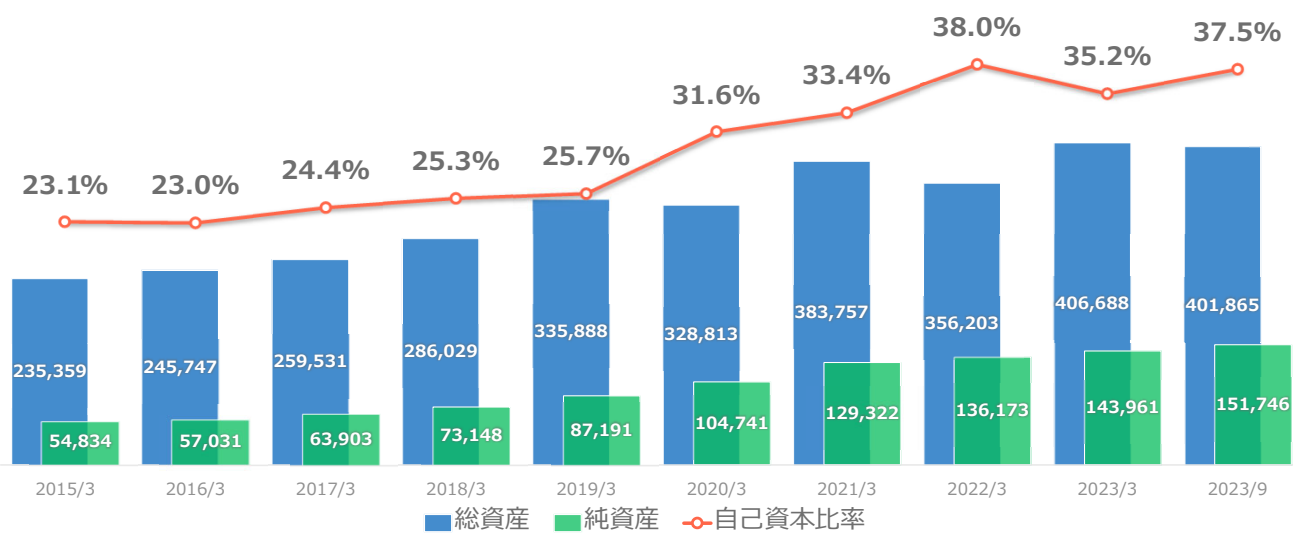


©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 連結総資産・連結純資産・自己資本比率



(百万円)

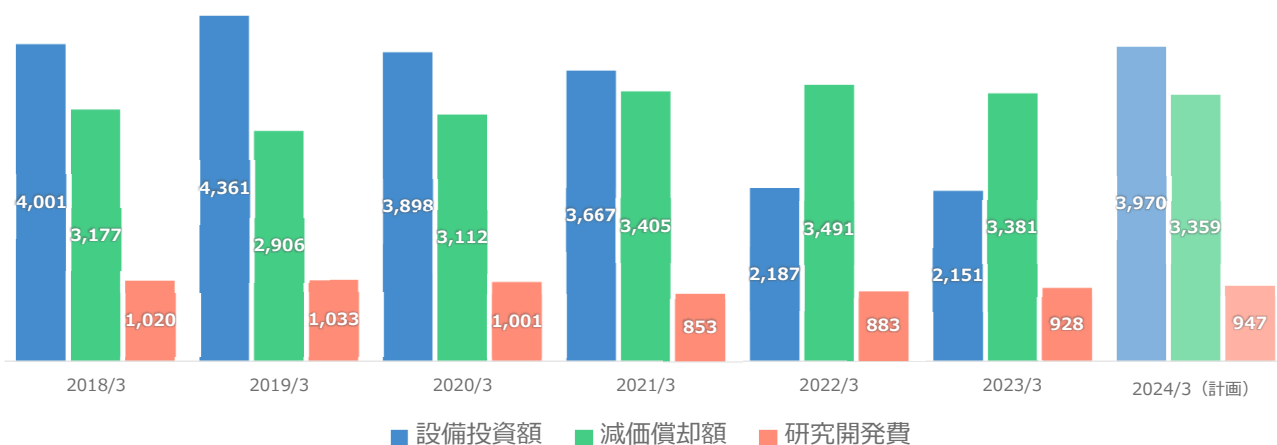


©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.

# 設備投資額・減価償却額・研究開発費



(百万円)



©2023 Daiwabo Holdings Co., Ltd.





ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

#### 【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。